

## 社会医療法人 耕和会 迫田病院 30周年記念に寄せて

～ 30周年記念誌 ～

社会医療法人 耕和会 常勤理事  
介護老人保健施設 サンヒルきよたけ施設長

柴田 紘一郎



社会医療法人 耕和会は平成 29 年 10 月 2 日に創業 30 周年を迎えます。その節目に「30周年記念誌」を発行致しますが、今回、その掲載予定原稿の中から、「柴田 紘一郎先生の寄稿文」をご紹介します。

社会医療法人 耕和会 理事長 迫田 耕一郎  
社会福祉法人 耕和会 理事長

### 社会医療法人 耕和会 迫田病院 30周年記念に寄せて

風のことは風に聞け、空のことは空に聞け、世のなりわいは天界に守られて。迫田病院グループは風に乗って、空高く 命運を感じつつ発展する。

迫田病院は 1987 年に大淀川沿いに開院以来、宮崎の地域医療、介護福祉の向上、発展に尽力されてきて住民の安全と健康保持に大きく寄与されてきました。このことに深甚なる敬意を表しますとともに病院は 30 周年を迎えられさらにご発展のまっただなかにあり、誠におめでとうございます。

添付の写真は迫田病院開院当時の懐かしい風景です、一部亡くられた先生もおられ時代の推移を感じますが、迫田病院を衷心よりサポートしてこられた先生方です。

さて、理事長の迫田先生と私は同じ大学（長崎大学医学部）出身で先生は私より 7 年後輩にあたります。そんな関係もあって先生が大学を卒業以来 同じ外科の道にすすんで以来 43 年来の鬼手仏心のおもいをもち続けている仲として、肝胆相照らす心の通じ合った同志として交流をはぐくんできました。迫田病院開院 10 周年記念祭では、[肺がん治療の現況と問題点] [QOL より見た考え方]と題して特別講演の榮に浴し、開院 20 周年では記念誌に「人生の貴重な贈り物—合縁奇縁—迫田病院と私」と題してその熱い思いを投稿させていただきました。

このたび 開院 30 周年記念誌ではその後の迫田病院との関わりについて述べ、いまや社会医療法人となり未来に向けて発展する迫田病院を祝したいと思います。

私は現在、迫田病院グループの介護福祉部門であります「サンヒルきよたけ」に勤務しております。当施設は先生が少子高齢化の進む本邦にあって、ヒトの子として、この世に生を受けた人間の生きる意味を医療とは観点を変えた面より注視して平成 7 年 6 月に開設された高齢者の介護老人保健施設であります。私は当施設に平

成 18 年 4 月より勤務していますが、そのつながりにも思わぬ縁をかんじております。というのは私が前勤務地の県立日南病院退職を決めた数時間後に迫田先生からお誘いの連絡があり、それがいまにつながっていて、その後 10 年以上が経過して、私は見えない糸で迫田先生に結ばれていることに天運を考えています。人のもつ定めはまさに風のことは風に聞け、空のことは空に聞けというごとく天界が決められているという運命の持つ不思議さを感じざるを得ません。

医療施設から介護施設に従事して、感じることは「医療とは生命の維持、回復を図り、介護は生命の尊厳を第一義に考えていく」という命題のもつ意味です。

本邦では少子高齢化は急速に進行しており 2025 年には 65 歳以上の高齢化率は 35%という未曾有の世界となり、すぐ近くには現在とは異なる社会医療体制・構造が生まれてきていることでしょう。そのことを考え本施設で毎日 認知症介護目標を唱和して仕事の柱としています。その標語とは「あなたと同じ目線にたち、笑顔で話を受け入れます。いつもあなたを見ています、ともに歩きましょう。」つまり その人に寄り添ってその人の存在を心から大切に利用者に接していくということです。本施設が中間施設としてその存在理由を大きくアピールし、将来への光を照らし続けるものとなると確信しております。我々がこの世に生誕したからには生老病死の四苦は人間の避けて通れない道です、いかに納得して自分なりの道を歩いていくかは本施設を開設した迫田先生の大きな意味合いも含まれていると考えます。

ところで 私は 2008 年に当施設に赴任しましたが、同年より年度ごとの施設計画策定及び部門ごとの目標設定、さらに職員同士の情報交換 また各人の働いた功績を記録に残し 顕彰するために各年度の業績集を発行することとして、本年まで 11 刊を発刊してまいりました。ご覧いただければ本施設の詳細がさらに判るかとも思われます、一読頂ければ幸甚です。30 年前に大淀川沿いに職員数 60 数名で植樹されたみずみずしい小樹林も いまや全職員数（臨時職員も含む）370 人の大名山に成長してきました。今後は職員の栄気が地上に満ち、 樹齢 1000 年へと宮崎の巨木百選になる成長が楽しみになるところです。



迫田病院開院後 懇親会にて